

STAGE+を楽しむ(147)(HP 収載)
—ブッフビンダーのベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲(2)—

1. 始めに

前報(146)に引き続き、STAGE+のブッフビンダーのベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回はブッフビンダーのベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の演奏を試聴します。

東京・春・音楽祭 (2024 年)

収録日: 2024 年 3 月 22 日

東京で開催されている日本最大級のクラシック音楽祭「東京・春・音楽祭」は 2024 年に 20 周年を迎えます。今年のプログラムの柱となっているのが、オーストリアのピアニスト、ルドルフ・ブッフビンダーによるベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏です。ステージプラスでは 2 回分が生配信されますが、本映像ではその第 2 弾で、ベートーヴェンの最後の 3 つのソナタをご覧ください。作曲者の技術の最も熟練されたもの、そして精神性と実験性が散りばめられた傑作を最高の演奏でご堪能下さい。

ソリスト:

ルドルフ・ブッフビンダー (ピアノ)

曲目:

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノ・ソナタ第 30 番ホ長調 op. 109

ピアノ・ソナタ第 31 番変イ短調 op. 110

ピアノ・ソナタ第 32 番ハ短調 op. 111

フランツ・シューベルト

4 つの即興曲 D. 899



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーター に対するCDクリーナーの処理を行っています。今回、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンプ端子を装着しています。

東京春祭を楽しむ(36)と前報(146)に引き続き、東京春祭のベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の三回目の演奏で、シューベルトの4つの即興曲が加わっています。

今回は後期のソナタ3曲ですが、これらの曲は、マウリツィオ・ポリーニの演奏で、STAGE+を楽しむ(3)以来、リファレンスとして聴いています。ポリーニの演奏は抑揚、強弱など、メリハリがありますが、ブッフビンダーの方は、自然体で抒情性すら漂わせるピアノイズムです。とは言え、どちらも優れた演奏に変わりはありません。

シューベルトの4つの即興曲は、美しい曲の抒情性を引き出した演奏です。

前報(146)と同様、音質的には配信元がSTAGE+になり、スイッチングハブとルーターのLANポートにフェルトダンプ端子が装着された効果で、ピアノの音は誇張感がなく、打鍵とそれに続く余韻も生のピアノを聴いているような感じです。



4. まとめ

昨年からのスピーカーアキュライザーの導入と位置変更、LANアキュライザーの導入、LAN iSilencerの導入、Crystal EpLの導入に加えて、フェルトダンプ端子の効果で、音質向上が実現できており、ブッフビンダーの自然体のピアノニズムを味わうことができました。

以上